

神戸の遺跡からみた縄文

神戸市埋蔵文化財センター歴史講演会「神戸の歴史探検」

平成23年5月21日 西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演資料より 要旨・図面抜粋

西日本の神戸からも 亀ヶ岡の遮光器土偶が出土した

1. 縄文時代とは 温暖化が進む気候激変を乗り切る知恵

- **土器の発明** 食生活の一大変革をもたらす大発明 煮炊きを可能にし、どんぐりなど食物の安定確保
縄文人の食事 狩猟採取といわれるが、植物5 魚・貝4 獣1 でイメージがだいぶ異なる
縄文人が土器に込めた思いが何か よく判っていない 実用から大きく変化する装飾
縄文晩期 西日本の縄文土器にはほとんど模様がない

- **石器の著しい進歩** 狩猟具の発達 気候変動に対応した小動物の増加に対応 弓矢の使用

2. 縄文人の暮らしを特徴づける不思議 まつりと祈り 埋葬・技術・土偶

1. 埋葬は屈葬が主であるが、その理由は分かっていない
2. 成年のほとんどに上あごの犬歯2本を抜く 10本以上の歯を抜いている例もある
3. 土偶の変遷 草創期からあるが、中期以降東日本で急激に増加
その表現も体部のみから顔・手足そして 様々な表現へ変化してゆく

3. 現代に生かすべき??? 縄文の暮らし 縄文がえりの勧め

1. 縄文人は現代人より健康的な暮らしであったが、医療の発達していなかったため短命
2. 自然と共生した暮らしと知恵 自然と共生した継続的な暮らし
3. 縄文人は平和的・友好的な暮らし 大きな争いのない暮らし

争いは水田耕作による定住が水争いを生んだのか 縄文人は定住地を持ちつつ移動の生活か・・・

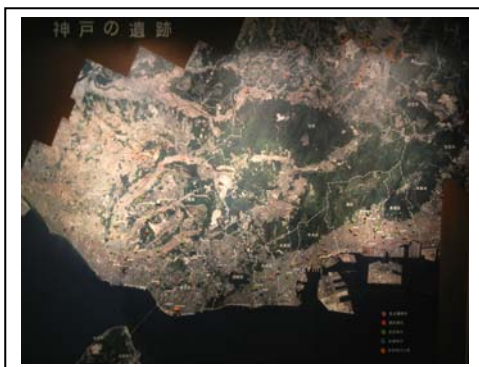
4. 縄文のまとめ 縄文人の暮らしは 豊かであったのか……

豊かさの指標を虫歯にとると……

現代人の虫歯	約14本
現代の狩猟未開人	ほとんど0本
縄文人 早期	0本
前期遺構	3本
弥生人	4本

人骨の成長異常

江戸庶民の人骨の成長異常の方が
縄文人の成長異常よりはるかに多いという。



神戸市内の主な縄文時代の遺跡

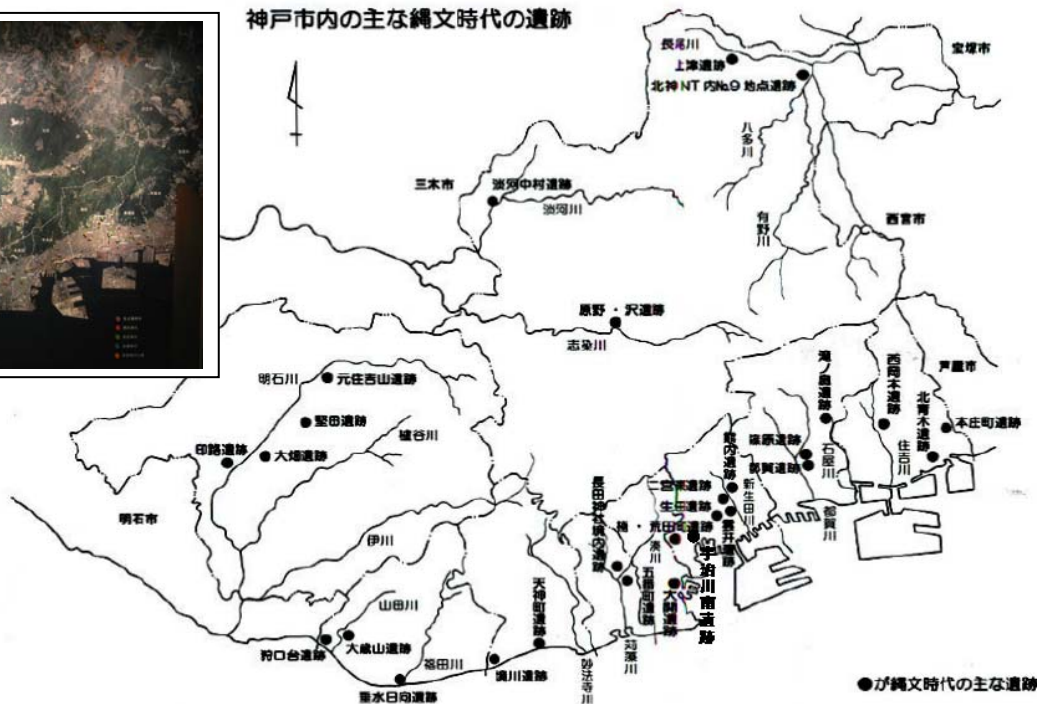


●が縄文時代の主な遺跡

- ◆ 六甲連山の麓 幾筋もの川が流れ下る扇状地には 縄文早期から縄文人の暮らしがあった
 そんな 縄文晩期の篠原遺跡から 遮光器土偶が出土した



神戸市内の主な縄文時代の遺跡



時期	主な器形	主な特徴	神戸市内の主な遺跡
草創期	深鉢のみ	丸底・尖底 出土例が少ない	滝ノ奥遺跡・天神町遺跡 有茎尖頭器のみ(土器出土例なし)
早期	深鉢のみ	尖底が多い 地域差が顕著になる 近畿・中部地方では押型文 関東地方では燃糸文	都賀遺跡・雲井遺跡・熊内遺跡 境川遺跡・狩口台遺跡 二宮東遺跡・垂水日向遺跡 西岡本遺跡(竪穴住居)
前期	深鉢・浅鉢・壺	平底が一般的になる 深鉢以外の器形が出現 波状口縁を持つものが出現	大歳山遺跡・雲井遺跡
中期	深鉢・浅鉢・壺 (火炎土器)	様々な器形が出現 竹管やへらなどの工具も使用 立体的な造形が見られる	垂水日向遺跡・雲井遺跡 淡河中村遺跡(竪穴住居) 舞子浜遺跡・上津遺跡
後期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器	さらに器形が多様化 磨消し縄文が普及 地域差が一時的に解消 注口土器が普及する	篠原遺跡・雲井遺跡・生田遺跡 元住吉山遺跡・原野・沢遺跡 印路遺跡・本庄町遺跡・大畑遺跡 垂水日向遺跡・堅田遺跡 宇治川南遺跡
晩期	深鉢・浅鉢・壺 注口土器・皿・埴	地域差が再び顕著になる 西日本では、器種が少なくなる 研磨土器が出現 末期には突帯文土器が出現	篠原遺跡・五番町遺跡・雲井遺跡 楠・荒田町遺跡・北青木遺跡 長田神社境内遺跡・大開遺跡 宇治川南遺跡

各時期別に見た縄文土器の主な器形と特徴・市内の主な遺跡

①縄文以前～旧石器時代(先土器時代)のくらし～

旧石器時代	約 35000 年前～約 13000 年前
縄文時代	草創期 約 13000 年前～約 9500 年前
	早期 約 9500 年前～約 6000 年前
	前期 約 6000 年前～約 5000 年前
	中期 約 5000 年前～約 4000 年前
	後期 約 4000 年前～約 3000 年前
	晩期 約 3000 年前～約 2500 年前
弥生時代	約 2500 年前～



神戸市内出土のナイフ形石器

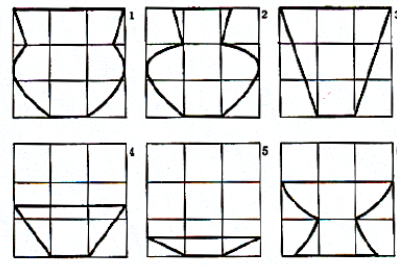
旧石器時代～弥生時代の時期区分とその主な年代



都賀遺跡出土の縄文土器(縄文早期)



原野・尺遺跡出土の縄文土器(縄文後期)



器形区分の基準 『縄文土器の知識Ⅱ 中・後・晩期』より転載

1. 壺(かめ)
2. 甕(つぼ)
3. 深鉢(ふかばち)
4. 浅鉢(あさばち)
5. 皿(さら)
6. 高杯(たかつき)



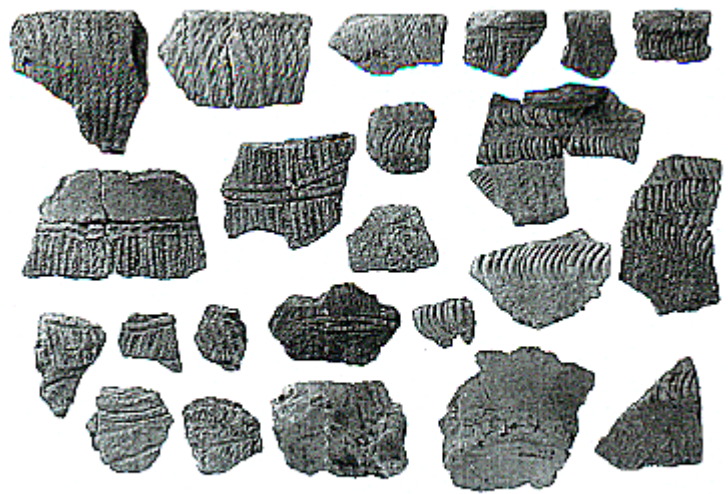
雲井遺跡出土の縄文土器(縄文早期)



大歳山遺跡出土の縄文土器(縄文前期)



垂水日向遺跡出土の縄文土器
(縄文中期～後期)



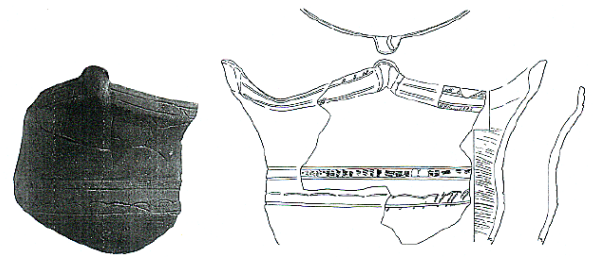
本庄町遺跡出土の縄文土器(縄文後期)



塚原遺跡出土の深鉢(縄文後期)

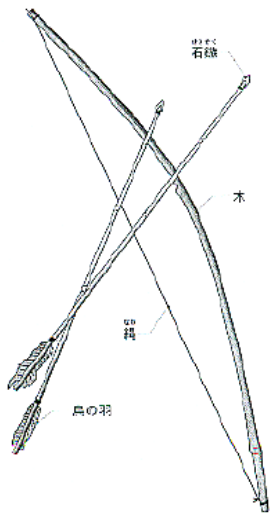
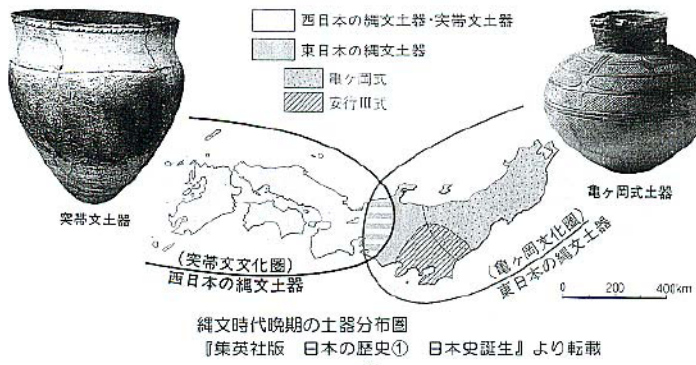


五番町遺跡出土の舟形鉢(縄文晩期)



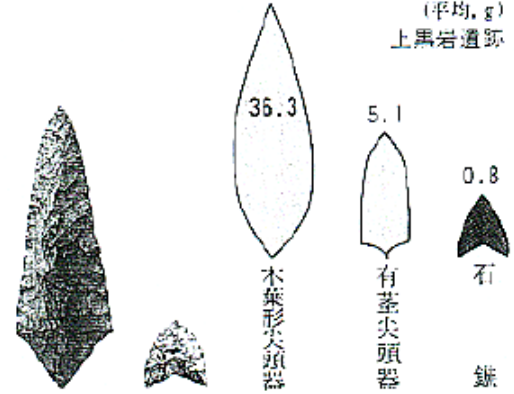
生田遺跡出土の深鉢(縄文後期)

0 10cm



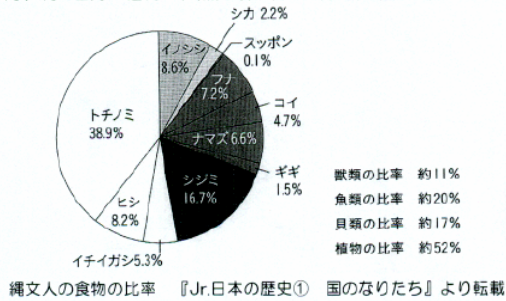
尖頭器と石鏃の重さ

(平均, g)
上黒岩遺跡



⇒ 弥生時代には、2グラムを超える

・食物の内、約52%が植物で、魚介類が約37%で、動物は約11%に過ぎない。



草創期	例 野井三遺跡			
早期	加賀(大塚)	花巻(田代)	小室(白土)	(一原)知
前期	藤原(三田)	杉形(若手)	中野(若手)	白根(若手)
中期	藤原(若手)	中野(若手)	西ノ前(山形)	十字形土偶(三内山)
後期	山形(上野)	山形(上野)	ハート形土偶(野井)	扇折土偶(野井)
晩期	藤原(大塚)	X字形土偶(藤原)	連形土偶(藤原)	連形土偶(藤原)

縄文時代の土偶変遷図

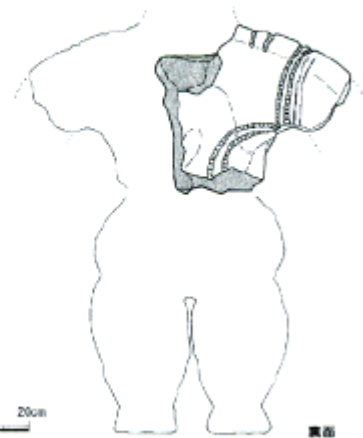
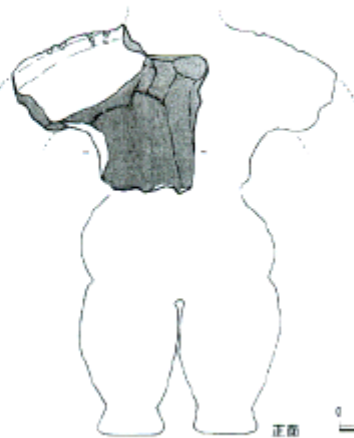
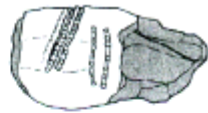
大阪府立弥生文化博物館『縄紋の祈り・弥生の心』より抜粋

・篠原遺跡(灘区)から出土した遮光器土偶は、青森県・亀ヶ岡遺跡出土品と同じタイプで、現在のところ、遮光器土偶としては、最も西端の出土例である。



篠原遺跡から出土した遮光器土偶
(縄文晩期)

青森県亀ヶ岡遺跡出土の遮光器土偶
東北歴史資料館編集『東北の土偶』より抜粋



0 20cm

正面

裏面

生田遺跡から出土した土偶(縄文後期)



雲井遺跡から出土した土偶(縄文晩期)



高田神社境内遺跡から出土した土偶
(縄文晩期)



篠原遺跡から出土した石棒(縄文晩期)



淡河中村遺跡から出土した石棒(縄文中期)

神戸でも北の縄文と交流 遮光器土偶[部分]が出土した 神戸篠原遺跡

縄文後期・晩期には 関西にも日本列島をつなぐ広い縄文交流路がつながっていた

2011.5.13. by Mutsu Nakanishi



神戸市内 六甲の山裾の縄文遺跡 篠原遺跡から出土した縄文土器片と遮光器土偶

西神戸 神戸市埋蔵文化財センター企画展、「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」で 2011.5.3.

5月3日 ぶらっと次の歴史講演会の予定をチェックしようと西神戸ニュータウンにある神戸埋蔵文化財センターを覗くと、「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」を開催中でした。

思いもかけず、縄文晩期[3000年前]の篠原遺跡から遮光器土偶(部分)がほかの東北系縄文土器片と共に展示してあるのを見ました。東北津軽の亀ヶ岡文化を代表する遮光器土偶がなんで神戸で…。それも神戸六甲のすぐ下の市街地で????。

余り良く知らなかった神戸の縄文時代。急峻な六甲から流れ出る川が作る山裾の扇状地周辺の森に縄文早期から、数多くの縄文人が暮らしていた。

現在はいずれも神戸の中心市街地ですが、山裾に長田・生田・そして篠原・岡本へと数多くの縄文遺跡が点在する。

また、神戸三宮駅のすぐ東 雲井遺跡からは縄文早期の土器片が出ている。そして六甲・摩耶山のすぐ下 六甲川と杣谷川が合流して都賀川となる合流点付近 現在の阪急六甲の西側の「篠原縄文遺跡」から遮光器土偶や縄文土器片 石棒等が出土した。

いずれも 東日本系の出土品だという。

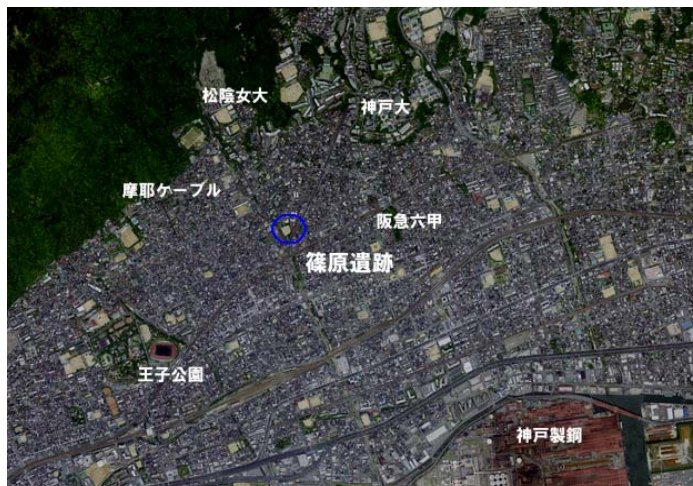
縄文の交易というと翡翠・黒曜石・サヌカイトなどの流通にかかわる日本海・瀬戸内の交流路のイメージが強いのですが、津軽の遮光器土偶が神戸で出土しているとは……。

学芸員の人に聞くと

「この遮光器土偶は出土の状況から、間違いなく東日本で作られた土偶で、神戸での出土は遮光器土偶の最西端だ。



篠原遺跡 出土 縄文晩期の石棒



また、なぜ 神戸で出土したのか どのような交流があったのかはよく判らない」と聞きました。
夢にも思えない東北を代表する遮光器土偶の神戸での出土。それも 本当に身近な神戸の市街地の遺跡で・・・・・・。
もう びっくり。 今さらですが、本当に縄文時代 日本列島全域をつなぐ広い交流があったのだと思います。



神戸市内から出土した縄文時代の遺物



縄文後期 生田遺跡出土土偶部分

西神戸 神戸市埋蔵文化財センター企画展、
「神戸古代史探検—縄文から古墳時代へ—」で 2011.5.3.

縄文というと

「火焰土器と縄文のビーナスの中部山岳地域から新潟」「三内丸山遺跡の大集落とストーンサークルに土偶・漆の東北」がイメージされ、 関西には有名な遺跡がなく、あまりなじみがない。

でも 日本全土につながる広い交流の足跡を示す面白い縄文が神戸にもある。

まだまた よく知られていない縄文が関西にはあるのだと。

そういえば、土偶という東日本出土のイメージが強いが、日本最古の土偶は鈴鹿山脈をはさんだ滋賀と三重で出土している。また、前回紹介した古代伝承の地「神出」の雌岡山と雄岡山に挟まれた金棒池周辺も縄文人の地である。

でも 神戸の縄文遺跡と言っても とっさには思い浮かばず。

そもそも 縄文人が神戸周辺に住んでいたのかどうかも 私にはあやふや。

そんな目で神戸市埋蔵文化財センター企画展「神戸古代史探検-縄文から古墳時代へ-」を見ると神戸市内 六甲連山の山裾周辺には 縄文時代の初めから縄文人が住み着き 実に数多くの縄文遺跡がある。この篠原遺跡のある六甲下の篠原都賀川流域 生田神社の森 長田神社の森 等々 びっくりでした。

【篠原縄文遺跡 概要】



篠原遺跡の位置 阪急六甲の西 灘区篠原中町から篠原北町周辺

六甲川と杣谷川が合流し、都賀川となる付近の標高 50~85m の扇状地
篠原遺跡は、六甲山南麓を流れる六甲川と杣谷川が合流し、都賀川となる付近を中心に灘区篠原中町から篠原北町周辺に位置し、標高 50 メートル~85 メートルの扇状地上に立地する縄文時代から平安時代までの複合遺跡。

この遺跡から出土した土偶は、縄文時代晩期に東北地方で多く出土する遮光器土偶（しゃこうきどぐう）のもっとも特徴的な目の部分（右目）であり、神戸の地においても遮光器土偶が出土した珍しいもの。

石棒は、縄文時代から弥生時代前期頃の祭祀（さいし）に使われたと考えられている棒状をした磨製石器。子孫繁栄や豊穡（ほうじょう：穀物などが豊に実ること）を祈願した呪術的な道具であると思われる。東日本に多く、西日本は比較少なく、神戸市内では、篠原遺跡の他に、縄文時代のものとしては、北青木遺跡・淡河中村遺跡、弥生時代のものとしては、大開遺跡・戎町遺跡などで出土している。



篠原遺跡から出土した縄文晩期



最西端で出土した遮光器土偶と石棒

5月21日この神戸市埋蔵文化センターで今回の展示にあわせ、「縄文時代の神戸」の講演会があるのを申し込んでいたので、これは楽しみである。

また、この遮光器土偶を出土した篠原遺跡 三宮から新神戸・王子動物園の上を通って阪急六甲へ行くバス道の途中。良く知った場所ですが、記憶では 北に摩耶・六甲を見上げ、南に下ってゆくスロープ上に広がる市街住宅地の向こうに神戸港・大阪湾を見渡せるロケーション。完全に神戸の市街住宅地の中に埋没してしまっているなあ・・・と。地図でみると六甲ケーブルの下で六甲の山が少し奥へ引っ込んで傾斜地が少し広がったところ。それぞれの谷筋を流れ下ってきた六甲川と杣谷川が谷筋を出て合流して都賀川となり、扇状地・氾濫原を形成していた場所に見える。やっぱり 景色のいい場所である。

実際にどんなところなのか しっかり見てこよう 長いこと六甲ケーブル下から六甲山へ登る油コブシのハイキング道も長いこと歩いていないので、合わせて歩こうと5月20日の午後出かけました。

また【篠原縄文遺跡 概要】と5月21日神戸市埋蔵文化センター講演会「縄文時代の神戸」資料より、神戸市内の縄文遺跡の分布図とリストを掲載しました。

参考資料

西岡誠司氏「縄文時代の神戸」講演資料(平成23年5月21日 神戸市埋蔵文化財センター歴史講演会「神戸の歴史探検」)



篠原遺跡周辺の今



六甲ケーブルの下 六甲の山裾の傾斜地が広がる袖谷川と六甲川が合流する扇状地にあった篠原縄文集落遺跡



阪急電車の橋梁がかかる合流点 都賀川から六甲を眺める 2011. 5. 20.



六甲油コブシ登山道より篠原遺跡周辺を遠望 2011. 5. 20.



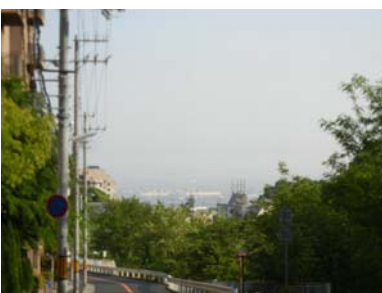
篠原遺跡が埋まる 左 杣谷川 右六甲川の合流点 篠原公園周辺 2011. 5. 20.



杣谷川・六甲川の合流点から下流側 都賀川周辺 2011. 5. 20.



杣谷川に沿って広がる住宅地 合流点の上 護国神社周辺 2011. 5. 20.



六甲川上流 鶴甲・篠原北町周辺 一番上に六甲ケーブル下駅がある 2011. 5. 20.